

南総市文化協会報

第26号

発行 令和6年(2024)3月14日

(題字：秋葉 アキヲ)

発行責任者 中山 治

貫き通した二宮教育

水海道の偉人

沼尻 茂



市議会議長
沼尻 茂
広報みつかいどう
S44.11.20号より

沼尻茂といっても、知っている人は少ないかもしれない。沼尻家は、谷田部城主・谷田部氏（城主・岡見氏の説もある）の系統である沼尻志摩の末流で、のちに水海道に移り住み、農業を営んでいた。

明治30年3月20日生まれの沼尻茂氏18歳の春、小学校の代用教員になったのをきっかけに、27年間教員生活が続け、昭和18年46歳で第二次世界大戦に応召。栃木県の足尾俘虜収容所長を2年間やったのが運命の別れ道で、終戦と同時にその責任者として軍事裁判にかけられ、「我々の俘虜を虐待した者を含む一切の戦争犯罪人に対しては、厳正な処罰が加えられるべきもの」と

いうポツダム宣言第十条によつて、B級戦犯として18年の刑を言い渡され、巣鴨拘置所に収容された。

戦争がもたらした悲しい出来事であった。足尾での米軍俘虜の死亡事件で、氏の俘虜に対する虐待があった、との口述書があったのだ。その後、米軍少佐と米軍医の口述書で、虐待の事実はなく、死因は心臓マヒであったと判明したものの、敗戦の悲哀であるうか判決に変わりはなかった。

巣鴨拘置所では、A級戦犯であった元外務大臣の重光葵氏の援助を受け、米軍最高司令部のモス博士の提案等もあつて、巣鴨拘置所内に巣鴨学園という名の学校を開設し、その学園長に推され、学園生みの親として最も困難な時期、長期にわたって職責を完全に遂行された。まるで長

州藩萩の牢屋敷、野山獄中で孟子の講義を行なった吉田松陰を思わせる。18年の刑であったが、拘置所内での活動評価が高かったこともあり、足掛け8年で幽囚生活から解放。昭和28年1月釈放されて帰郷後、水海道市の選挙管理委員長、教育長として縦横に手腕を振るわれたのち、38年66歳の時、水海道市議選に立候補して当選。衆望の一致するところとなり、初当選にもかかわらず、市議会議長に選ばれ、8年間務められた。

氏は教員当時から、常に報徳の精神を説かれ、教育の基本を二宮尊徳の「至誠」「勤労」「分度」「推譲」の四つの教えを守ることに信じていた。また、戦前には当時の秋山水海道町長に懇願し、勤務校であった水海道小と大生小に二宮金次郎の銅像建立を実現した。

教育者から、俘虜収容所長戦争犯罪者、市議会議員、と千変万化の人生を送られた沼尻茂氏であったが、昭和61年春の叙勲では勲六等単光旭日章の榮譽を賜った。氏は、平成10年10月9日、101歳の天寿を全うし、波乱に満ちた生涯を閉じられた。

※現存する巣鴨中学校・高等学校を運営する学校法人巣鴨学園があるが、前述の学園とは関係はない。

(小田部芳美)

樂苦我記

沼尻 茂

筆者所有の沼尻茂著述本『樂苦我記 巣鴨雑記帳から』(昭和63年11月23日刊行 92歳)

(注記)

※巣鴨拘置所とは、第二次世界大戦後、連合国軍の占領下に置かれ、最高司令官総司令部(GHQ)の接収により「スガモプリズン」と改称され、戦争犯罪容疑者が多数収容された施設。昭和23年12月23日、第40代内閣総理大臣東条英機の絞首刑が執行された場所としても知られる。



常総市文化協会には様々な文化芸術分野の団体が加盟しており、新規の加入や見学も受け付けています。会員だよりで紹介された団体は文化協会加盟団体の一部ですので、団体に入っ てみたい、こういう団体を 探している等の御希望がご ざいましたら事務局までご 相談ください。

千姫せんべい

と落語会

みつかいどうアクト21

みつかいどうアクト21は、発足24年になります。町の活性化を願って活動を始めました。「みつの道あいの町」をコンセプトに藍染を地域の小中学生に伝えて作品を文化祭に

展示し多くの人々との交流を図りました。また同時に町の方々の趣味の作品の展示会で賑やかな交流が生まれました。現在は「千姫まつり」の参加で「千姫せんべい」と名付け地域のおせんべいを5種まとめ販売し多くの皆様に喜ばれています。最近では文化祭の一環で常総落語会を開催しています。皆様のおかげで第6回目を迎えるまでになりました。来年度も行う予定にしております。多くの常総市民の皆様に文化を……という気持ちで。

時代と共にメンバーの減少と高齢化で活動が狭められてきました。アクトの活動に興味のあるお方歓迎いたします。水海道公民館で第二水曜日に例会をしています。

(事務局 梅澤三恵子)



古文書に親しむ

古文書クラブ

石下地区における古文書関係について述べますと記憶は定かではありませんが平成10年以前の頃、地域交流センター(豊田城)の一室で古文書の会なるものが開かれていました。少し興味があつたので自分もそこへ入会しました(10名前後おられた記憶)。しかし初めて古文書なので一目見てこれは自分には無理だと思いつつ退会しました。その後どう推移したのかわかりません。が、今から15年位前に前述の豊田城でも学んでおり古文書に精通していた人見雄三氏が新たに会員を募集(市広報誌掲載?)したので見て再入会しました。8名位集まり常総古文書クラブが誕生しました。

会則も出来それからもう20年位経ちますが、その間民俗資料館に保存されている江戸時代の新井家の古文書を主に学んできました。しかし会員は高齢者ばかりで自然減少の兆しから、昨年5月に生涯学習課より各種講座案内のチラシに「古文書講座」を掲載したところ何と現会員8名を上回る11名(内2名退会)の申込がありました。びっくりしました。そして昨年7月より新会員9名が加わり現在17名

で近世の古文書を学んでいます。自分は20年位古文書に携わっていますが、まだまだです。私どもよりはるかに若い9名の方々に大きな刺激を受けています。たまには全員で歴史探訪などをしながら楽しく学んでいければと思います。古文書クラブ活動日：毎月第2、第4火曜日に石下文化センターにて活動。(秋葉竹由)



短歌を親しむ

水海道地方短歌会

結成から61年、長い歴史を持つ短歌会です。多くの先人たちが遺してくれた歌集には短歌に対する並々ならぬ熱意が感じられ只々尊敬の一語に尽きます。現在会員は10名で楽しみを第一に活動しています。定例会は毎月第二水曜日に市立図書館で行っていま

す。図書館では来館される方々に文化団体の活動を知っていただく機会として毎年「文化サークル作品展」を開催しており、私たちも自分の短歌を色紙に書き展示して頂いています。

「市民文化祭短歌大会」は石下地方短歌会、常総短歌会との3団体で運営しています。コロナ禍で2年間休止しましたが、昨年に引き続き10月に第56回大会を開催致しました。又、「長塚節文学賞」短歌部門にも毎年応募して研鑽を積んでいます。短歌を詠む事により喜びは倍に悲しみは半減されるように思います。「短歌って難しいのでは？」と思われるがちですが、そんな事はないですよ。見学にいらっしゃいませんか！(松崎マサ子)



令和5年文化協会 視察研修に参加して

本視察研修は、あすなる陶芸部の年次の活動計画に組み入れておりました。コロナ禍が収束に向かう中で本年の企画を部員一同楽しみにしておりました。

今回は東京国立博物館の視察研修ということで当部からは7名参加させて頂きました。視察研修日から5ヶ月が経っており記憶もうすらいでる中での寄稿的を得ないところもあるかと思いますがご容赦願います。当日朝の心配された雨も幸い降られることなく、連日続いていた猛暑も和らぎ快適な視察日和に恵まれ参加の皆さんと共に和気あいあいのバスツアーで博物館に到着いたしました。日本文化の殿堂、入場してすぐのエン

トランス中央の大理石の大階段などの荘厳さに目が奪われ国宝、重文などの文化財が収納展示されているにふさわしい佇まいに感動させられました。

今回は常設展示のみの見学でしたが、縄文時代から江戸時代へと時代の流れに沿った日本文化の粋、ジャンル別の仏像、武器、書画、漆工、陶磁器等々の伝統工芸の展示を巡りましたが、会場は予想以上に広く1日では鑑賞しきれ

ない展示ポリウムでした。当日は外国の方の入場者も多く、浮世絵コーナー等では顔を寄せ合う至近で鑑賞する状況で、外国人の日本文化への関心の強さを肌で感じました。小生、東京国立博物館へは恥ずかしながら初めての訪問で、今回日本文化の足跡に身近に触れる機会を与えて頂いた文化協会会長はじめ、お世話頂いた方々に感謝申し上げますとともに、今後この種の視察研修が企画されることに期待を寄せております。(あすなる陶芸部 中森祥之)



東京国立博物館 研修会

7月9日(日)小雨降る中、常総市役所に集合し、文化協会主催の研修会で東京国立博物館(以下、東博)へ行ってきました。

前回は2019年6月東京



牧野真弓

藝術大学美術館へ。翌年、笠間研修の予定がコロナ禍により中止となり、4年振りとなった研修会のメインは東博常設展の見学でした。市のバスに乗り込み、上野に着く頃には雨傘どころか日傘の必要な天気。館内に入ってから、各々自由行動となり私を含む一部数名は購入した特別展古代メキシコのチケットを手に先に平成館へ向かいました。写真撮影可能な展示にテンションも上がり、観たり撮ったりを繰り返す内に出口が目の前に。国際子ども図書館での昼食後は、黒田記念館に立ち寄り、いざ常設展へ。バスで来ているという安心感もあり、思う存分歩き回り東博本館内部の展示物はもちろんの事、建物まで堪能する事が出来、充実した研修会となりました。(水海道造形美術研究所)

常総市文化協会役員紹介

常総市文化協会は、芸術・芸能・音楽・歴史・自然など、31団体と10名の個人会員により構成され、常総市外郭団体として、常総市教育委員会生涯学習課と共に、常総市文化の育成に尽力しています。当協会の担当役員は現在8名で、各分野からの選出となっており、代表する文化行事として、年間を二期に分け、春期に開催する「芸術文化のつどい」を文化協会、秋期開催の「常総市民文化祭」を教育委員会が担当し、互いの会期には互いにバックアップをします。

また、参加者の感想を紹介させていただきますが、会員の親睦と知見を広める事を目的に、年一回文化協会主催による視察研修会を実施しています。

やはり、私たちの住む町の興隆に一番重要なのは、16世紀イタリアルネサンスの勃興の如く、文化興隆を中心とした教育であります。

市民の皆様の文化事業へのご参加と文化協会への御助成を切にお願いするものであります。(会長 中山 治)

会長 中山 治 水海道造形美術研究所主宰

副会長 橋本 武夫 常総市水海道民謡舞踊連合会会長

監事 石山 修 (個人会員) 染色工芸家

小田部芳美 (個人会員) 郷土史

会計 梅澤 隆 (個人会員) 竹工画

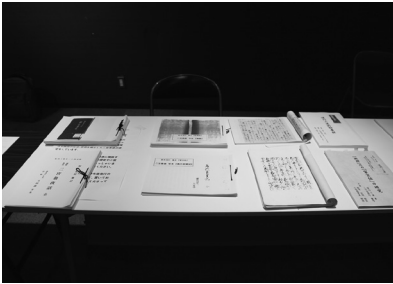
梅澤三恵子 水海道混声コーラス代表

河合 宏 (個人会員) 文芸

川上みちよ (個人会員) 美術家

常総市芸術文化のつどい

令和5年6月29日～
7月2日



令和5年度

市民文化祭

令和5年10月21日～
11月5日





ぴぷる PEOPLE

人物
Special
People

「里山の魅力を伝えます」

坂入 真史さん



筆活動をしています。さらに令和5年度は日本最大級の面積を誇る低層湿原の渡良瀬遊水地第2調整池で、主に栃木県小山市民の方々へ動植物の魅力を伝える活動に努められました。

今回のインタビューの中で坂入さんが熱く語ってくれました。「私の活動の原点は、常総市の里山の魅力を伝え、後世に残す活動に従事したいという気持ちです。例えば、小貝川では約2ヘクタールの河川敷に希少な絶滅危惧植物が27種確認されており、その種を保

坂入さんは現在、大塚戸町にある野外研修施設水海道あすなろの里の職員として勤務され、今年で10年目となりました。坂入さんは旧石下町の鬼怒川にかかる石下大橋のたもと篠山で生まれ育ち、現在も故郷の恩恵を受け自身のライフワーク活動の拠点としています。あすなろの里では、自然教室として「命のつながり」をベースに田んぼの学習体験や、創作体験指導、里山の自然観察会などを行なっています。また、常総市文化協会加盟団体「自然友の会」の会員でもあり、元教員で豊富な知識を持つ場伸一会長と共に、講師としても活躍されています。つくば市では自然科学教育普及団体地球レーベルでも茨城県内を中心に地域密着の観察会で指導され、執



「小山市渡良瀬遊水池ガイド協会の方々と菅生沼にて全するため毎年1月に野焼きを行なっています。また、菅生沼は県最大の自然環境保全地域で、鳥獣特別区に

指定され毎年約300羽の白鳥の仲間が飛来し、特に県内最大のコハクチョウの観察地です。あすなろの里も菅生沼の一部であり、この環境の魅力を伝えるに連れ一層調べていきたい衝動に駆られました。あすなろの里での勤務2年目、茨城県自然博物館の伊藤彩乃先生から「菅生はスゲ(菅)が多く生えていることが名前の由来なんですよ。」とお教えいただき、かつて水量豊かだった沼の姿を表すものと思えました。今湿地は県内各地から消えつつあります。湿地植物の宝庫「菅生沼」の自然環境を保全して、次世代に継承していくことを目的に今後も活動を行なうていきます。」

んな環境でも、観察できる生き物がいない場所はない)と考えています。急速な環境変化の中で、適応能力の高い生き物は逆境に耐えて生息しているので強力な生き残り戦略・繁殖戦略等々の観察も楽しみです。

今後の私の目標は、何か目的を見つけ、将来博物館や大学で研究したり、あるいは趣味として生き物を観察したりする子どもたちが増えていくための、その足掛かりになればと考えています。」と、思いや抱負を語っておられました。

熱い情熱をもって動植物の研究・観察・後進の育成に全力を傾注する坂入さん！地元の自然文化の継承者として、坂入さんのますますのご活躍を祈念し、これからも応援していきたいと思えます。

(小田部芳美)



「里山の動植物観察」逆井城跡公園にて

常総市の歴史

明治期の水海道から石下へ

河合 宏

長塚節の散文に『月見の夕べ』という明治36年に発表された写生文があります。内容は、水海道から石下に帰るまでの道中を描いたものです。(紙面の都合で抜粋し、旧字など原文を用いています。)

家からの出が非常に遅かったものだから、ソコソコには用は足したが、知り合いの店先で「イヤ今夜は、苧えましようぜ、これでは、今朝からの塩梅(あんばい)では、どうも難しいと思ってましたが。まあ、これじゃ麦が採れましよう。十五夜が苧えりゃあ、麦は大丈夫採れるというんですから。どうか、そうしたいもので。」などと云う主人の話を聞いていた。『などと云う』水海道を出たのは五時過ぎになってしまった。尻を十分に巻くし揚げてセッセと歩く。落ちかけた日が、斜めに照らし掛けるので、自分の影はヒヨロヒヨロとした突き越した頭になって、野菊の花や蓼(たぐ)の花を突き越して蕎麦畑へ映る。それから粟畑、それから芋畑と段々に移って行く。小山村を通り抜けて中妻へ掛る。速力はズンズン加わって来る。こうして歩いて

いる間に、少なくとも三、四人、六、七人位の連中が男女混合でヨタヨタとやって来るのに出つくわされる。大抵は若い同志で、何れも草鞋(わらじ)「しらえである。それがたえず出つくわされる。これらの者は、みな大宝帰りので往復にしては、十三、四里もあるのだから、少しはピッコ引くのも仕方がないが、草臥(たぶ)れて仕舞ったと云う塩梅は、多少の滑稽を交えている。(中略)

日の入るのは、早いもので、柿の木や榎の木の間からキラキラと光って見えた光が、中妻を出抜けると、サワサワと西へ向いて靡(なび)いている芒(すすき)の穂(ほ)に掛って見える。(中略)

草鞋(わらじ)「しらえの連中も通らなくなる。お終いに、十三、四位な子供が二人でヨボヨボやって来た。「早く家に成れば良いなあ」という顔をして歩いている。遊び仲間(あそび仲間)で相談(さわたり)が纏(まと)まり「後ろの竹さんも大宝へ行くうちゅうから、俺も行って良かんべ」と云ったような事をお袋(ひしお)にねだった末に、単衣物(ひとえもの)の腰上げを下ろして貰い「悪(わる)さんぞして、汚(く)すんじゃねえぞ」と戒められて「そうれお父(おとう)つつあげ、隠(かく)して遣(や)るんだから」と白銅(はくどう)一つあとから蝦蟇(がま)口へ入れて貰(もら)って「人混(ひとまみ)みの中で、はぐれちゃいかねえぞ。二人でようく、つかまって行くんだぞ」と云われたことまで、何でもウンウンと聞き流(なが)して、嬉(うれ)しまぎれに急いで行って、大蛇(おほへび)の見世物(見世物)で一錢、ろくろ首(ろくろくび)の見世物(見世物)で一錢、軽業(かるわざ)で

一錢五厘、それから団子(だんご)を一皿(ひら)喰(く)って、お替(か)りを云うことが出来ず(出来ず)にしまつて、梨子(なし)を買(か)って柿(かき)を買(か)って、芋串(いもくし)を買(か)って、八幡(やっぴん)太郎(たろう)の絵本(えほん)を買(か)って、風船(ふうせん)玉(たま)も買(か)いたかったが「無駄(むだ)な物(もの)なんぞ買(か)って来た(来た)ら聴(き)かねえから」と、家(いえ)で云(い)われて来た(来た)ために、それは諦(あきら)めて、よっぽうさんざ遊(あそ)んで帰(か)って来た(来た)ので、途中(ちゆうちゆう)からよくよくに草臥(たぶ)れて仕舞(しま)い、今日の面白(おもしろ)かった話(わたり)も出(で)なくなつて。「早く家に成(な)れば良いなあ」と思(おも)いながら行くのである(である)う。罪(とが)のない事(こと)だと思(おも)つて振り返(かえり)つて見(み)ると遙(はるか)かに隔(は)り隔(は)りした。自分(自分)の歩く(歩く)のが早(はや)いからである(である)う。(中略)

五箇(ごか)まで来(来)れば、石下(いしげ)への半分(はんぶん)道(みち)で、此(こ)処(こ)からは野路(のり)ばかりになる。常(つね)に行(い)き馴(な)れた間道(まぢみち)なのである。(中略)しばらく歩(あ)り歩いてい(い)るうちに、其(こ)処(こ)の森(もり)から田(い)を隔(は)りて(を)ポンポンポンと云(い)う音(ね)が聞(き)え出(で)した。子供(こども)供(ども)が巻藁(まきわら)を打(う)ち出(で)したのである。自分(自分)がまだ幼少(ちやうせう)の時分(とき)に、良(よ)くした事(こと)である(である)が手頃(てぐら)に藁(わら)を束(むす)ねて繩(ひも)でギリギリ巻(ま)いて、そいつ(そいつ)を擔(にな)いては家(いえ)々の庭(にわ)へ行(い)つて、力(ちから)一杯(いっぱい)に叩(たた)き廻(まわ)るのである。その叩(たた)くと共に、「大(お)麦(むぎ)小(こ)麦(むぎ)、三(さん)角(かく)畑(はたけ)の蕎(そば)麦(むぎ)あれ」と皆(みな)で声(こゑ)を揃(そろ)えて叫(こゝろ)ぶのであつた。巻藁(まきわら)の中(なか)へ芋(いも)殻(がら)の干(か)したの(の)を入(い)れると音(ね)が良(よ)いと云(い)つて、拵(しん)えて貰(もら)つた事(こと)であつた。今(いま)叩(たた)いてい(い)る子供(こども)等(ら)も、い(い)かに楽(たの)しい事(こと)である(である)うと思(おも)つた。自分(自分)はこの巻藁(まきわら)の音(ね)が非(ひ)常(じょう)に好(この)きで、殊(また)に眩(くら)いような蕎(そば)麦(むぎ)の中(なか)へ立(た)つて、この巻

藁(わら)を聞(き)くのは何(なに)とも云(い)えない善(よ)い感(かん)じがするのである。こんな事(こと)を思(おも)い浮(う)べながら、石下(いしげ)へ着(き)いた。石下(いしげ)の町(まち)では、明(あ)かりは真(ま)つ赤(あか)に点(ち)いてい(い)る。洋燈(らんぶ)の下(した)で夕餉(ゆゆう)をしたため(ため)てい(い)る家(いえ)があつた。そうしてその家(いえ)の表(おもて)へ供(そな)へた机(つくえ)の上(の上)の団子(だんご)を猫(ねこ)が啞(くわ)え出(で)して、机(つくえ)の下(した)の暗(くら)がり(り)で噛(か)つてい(い)るを夕餉(ゆゆう)の人(ひと)々(々)は知(し)らぬ(ぬ)げであつた。外(あ)は賑(にぎ)か(か)で、月(つき)は愈(い)々(々)苧(え)えま(ま)さ(さ)つた。「これ(これ)では麦(むぎ)が採(と)れる(る)だ(だ)ろ(ろ)う」と思(おも)つた。

さて、ここに描(えが)かれてい(い)る場(ば)所(所)などを想像(さうぞう)出来(こ)ますか?

三坂(さんさか)新(しん)田(た)町(ちょう)周(しゅう)辺(へん)は、道(みち)の駅(えき)「常(つね)総(そう)」や農(のう)業(ぎょう)施(し)設(せつ)等(ら)が整(ととの)備(び)され、昔(むかし)の面(おもて)影(かげ)はな(な)くなりま(ま)した。現(げん)在(ざい)では道(みち)路(ろ)が整(ととの)備(び)され、国(こく)道(どう)294号(ごう)線(せん)が走(は)り、関(かん)東(とう)鉄(てつ)道(どう)常(つね)総(そう)線(せん)もあ(あ)り、水(みづ)海(かい)道(どう)と石(いし)下(げ)は、30分(ぶん)で行(い)き来(こ)出(で)来(こ)る(る)よ(よ)うに自(じ)転(てん)車(しゃ)や自(じ)動(どう)車(しゃ)等(ら)が発(はつ)達(たつ)しま(ま)した。



茨城縣常陸國筑波郡上郷村及下總國豊田郡中妻村(迅速測図原図)

市内
高等学校
吹奏楽部紹介

石下西中学校吹奏楽部

令和5年度の本校吹奏楽部は、1〜3年生で19名が所属しています。近年は部員数の減少に悩んでいます。私たちは「地域に愛されるバンドであり、音楽を聞いてく、ださる方と共に感動しよう！」をモットーとして、日々活動しています。

コロナ禍における制限も緩和され、コンクールやイベントに参加し、演奏を披露する機会も増え、充実した活動ができるようになりました。日々の練習内容を自分たちで考え工夫し、協力し合いながら取り組んできた結果、コンクールでは県大会に出場するまで成長しました。演奏後の達成感や温かい拍手をいただいた時の感動は、生徒たちにとって心の栄養となり、ステップアップにつながっています。また、ウクライナ出身のイリーナさんとのコラボ演奏など、貴重な経験を

させていただきました。生徒一人一人の可能性は無限大。3年間の成長は著しいもので、本番のステージ上で発揮する想像以上の力は胸を打たれます。これからも、地域に愛されるバンドとしてよりよい演奏ができるよう、頑張っていきたいと思います。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

(吹奏楽部顧問

渡辺 桂子)



文芸 青磁会

虎落笛漬物石の沈みたる

秋田 武

さらさらと齡過ぎゆく水の秋

安藤 陽子

寄り掛かる柱涼しき母の家

草間 土居

掌になじむ益子の茶碗春隣

坂本 幸子

やはらかき少女の髪や豆の花

添野 真一

外に出よと誘ふ夫と十三夜

染谷てる子

父の日の傘立にある父の杖

高島つよし

野の香り厨に放つよもぎ餅

田中 冬泉

どの道を行きても風の刈田かな

栃木絵津子

今を生きるみんなみん蟬の声高し

野口 光江

刃を入れて冬至南瓜のしたたかや

広瀬詩華子

合格を祝ひし膳のおでん湯気

芳師渡節子



編集後記

本年は、コロナ感染も落ち着き各地でも様々な行事が復活しました。常総市でも「芸術文化の集い」や東京国立博物館への文化協会視察研修会、「市民文化祭」を開催し、各団体の活動発表の場を設ける事が出来、参加された皆様の生き生きとした動き、明るい笑顔を久しぶりに見ました。

コロナ禍により交流機会がなかったこともあり、段々以前の賑わいを戻しつつある文化事業ですが、全国的には高齢化による会員の減少等で、活動が縮小されている団体等も出てきていますが、地域の交流を永く続けられるよう元気で長生きに努め、市内の子供たちが、自分の住む常総市がどのような街か、住んで良かったと思えるような文化を発信していきたいと思うこの頃です。

また、道の駅「常総」がオープンして県内外から沢山の方が、訪れるようになり賑わっています。常総市の歴史や芸術文化を今以上に沢山の方々に周知できるようにも必要でしょう。(河合)

事務局

常総市教育委員会 生涯学習課
(常総市役所石下庁舎内)
常総市新石下4310-1

電話 0297-30-8880
FAX 0297-44-7646